視藥報條（上）

通油町
鶴喜板

へ13
2946
130

視藥霞報條 (下)

通油町
鶴喜板

江戸膏坊翠楕仙鶴堂老舗小林喜備謹白

畔字瑣吉性好藉戲
是以雖兒園冊子亦
雄也先生嘗言趙再
原不好真龍先生之
于先生而雕刊其所
不至悞

曲亭馬琴老人文方

弘所

視藥霞報條

江戸通油町
鶴屋喜右衛門製

先生方よりせり作一切出し不申

馬琴雜著 (上) 飯臺曲亭 [illegible]

曲亭稗史

飯臺曲亭馬琴先醒姓瀧氏名解字瑣吉性好著戲謔之言每作稗史以警悟當世是以雖兒園冊子亦有深意之存焉真可謂滑稽之雄也先生嘗言趙再白詩云名士本来如画餅古人原不好真龍先生之於小説也皆根于此予毎歳請于先生而雕刊其所著凡賜顧君子認印號為記冀不至悞

江戸膏坊翠樵仙鶴堂老舗小林喜衛謹白

曲亭馬琴老人文方
弘所
視藥霞報條
寛政十二庚申の春 [illegible]
近年世上流行 [illegible]
相見申候 [illegible]
江戸通油町
鶴屋喜右衛門製
先生方よりせわ作一切出し不申

2946
130

あぐら家焙り出茶

棟梁軒大九郎製

御作料一口三文

八分地蔵丸

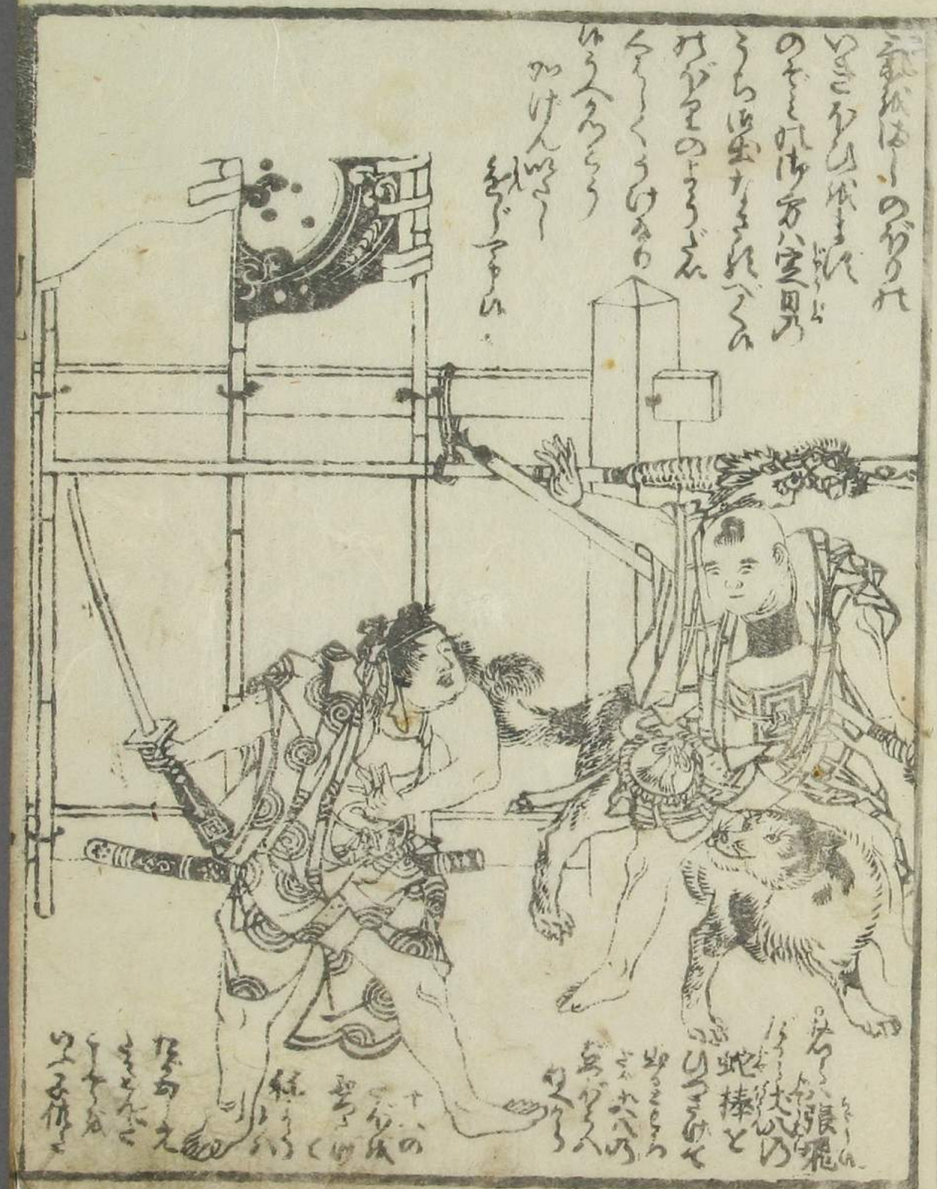
再々庵忘老人製法

関羽八十二斤青龍湯

三國相傳美髯香青龍湯

本家　三國子調合

雲州　壽亭小路



本家
瀬川神仙路考油

一発一分れいの丸ねじ
こうせんをさしこみたる
一わけ三本一丸代五匁五分
一枚看板出し置すみ
十包入一箱付給金千両

右路考油の儀は芝
の社内もとこうしゆの業
あるて仕給小男ゆる
人へ弟子すし

唯一太太香

日本一社勢州山田氏製

夫ちく香ハ神秘不思議の良性あり世ちくちくちるこころの寄特あり一ヶ月二百粒三百粒で用ゆるバけごろひ成ちくひく幸をむすこえ秘ひと指ぐく拔びかくと家内けのーすこやふーて至宿迄絶く使ふて用ひて奉納あけくかぐえ

一子総領あんぽん丹

本家 總領甚六

代料百の口十六文拔

大畫盛宴兒うつき茶

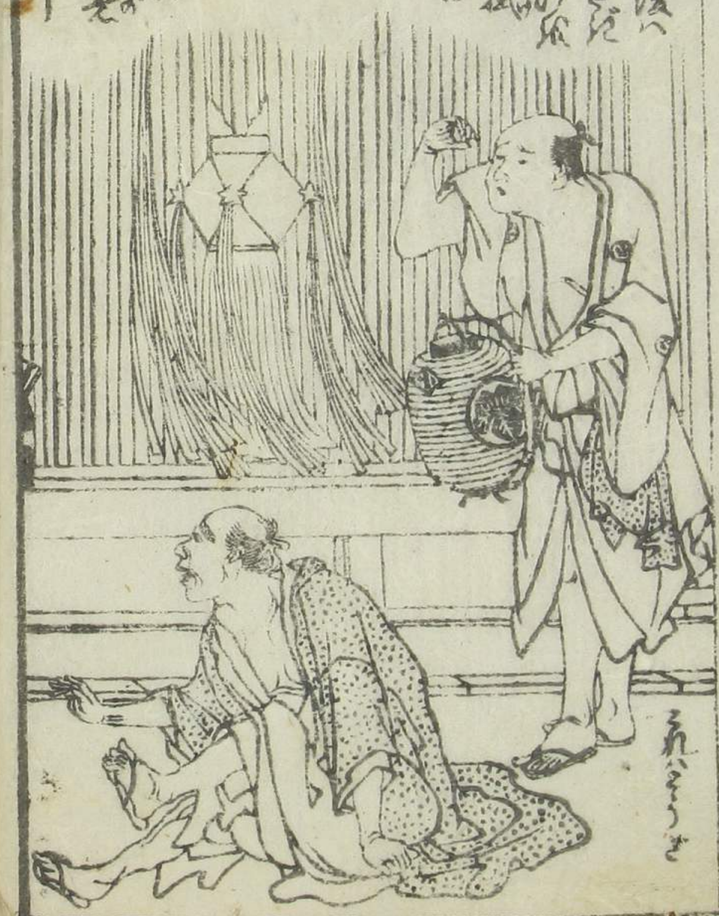
本家
不了軒
阿法

此くさう用ひやうハ
絵うら系乃のくさ
とのしすてたきふ
あぶくれくんく青
茶ゐ茶をとうけ
みてくくあして
常ゐ食をれど
第一のが出とら
さげせたこをを
ちつあくくあう
市んを出のひと
けふ毛をちぶ

ヲイランダ
内服薬
弘所北州三浦
高尾氏

錦栗屋ぼんぜん盆後ぢつ物薬

物前出入町
錦栗屋辛兵衛



胃保痢丸

兄包　曽我十粒入
弟包　同　五粒入

西

精性朝間看経丹

壹劑

煩悩百八銅

元小児きほ丸

市川三升通

藝の上ル町

弘所　萬屋介六

天蓋散
むさうの妙薬
忠臣藏通
九段目語ル町
竹田出雲掾製

百韻

俳諧七部集

冬の日

本家 荒木田守武 制作
芭蕉庵桃青 調合
弘所

千金字尽

五葉の茅

八節句一廻

二百銅

附薬天神香一膏拾六文

眠参新造圓

壹劑金壹歩 但一ふくろ

取次所 何も茶屋有之

▲戯子名所圖會

山東京傳子著

忠臣水滸傳前編

全部五冊尚年出来賣出し
ヤはりのお反ゆてれ求
ツをトい

式冊子ハ太平記小もしくハ水滸傳ゆどらひ忠臣藏のおやう
より弧言師匠塩冶高貞の得失家柘をおりしろく出とり
るよゝ本ゆり

同後編　全部五卷　来春出来

これハ七版目より十一ゝ目まで版のおりもさを五田小
ゆとり共小水滸傳にゆどらふ

尊氏勳効記　北尾政美筆　全五冊

曲亭馬琴子作
哥川豊國画

役者名所圖會

芝居のやくすゝ役者のひやくをゝ弧山川草木名所旧跡をひさる面白き冊子なり

摘二代軍記　北尾政美筆　全五冊

ミよしゝずり繪入ゆ三冊
出来賣いざしゝヤい